

竹下復興大臣記者会見録

(平成27年10月4日(日) 16:23～16:30

於) イオンレイクタウンmori内「会津フェスタ2015」)

質疑応答

(問) 大臣に伺いたいんですが、今日は会津フェスタのほうを見て、にぎわいとかを見て、どういうふうにしたのかという点と、福島県の風評被害について、お考えがあればお聞かせいただきたいんですが。まもなく5年にもなりますので、風評は今どうなったとか、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。以上2点お願いいたします。

(答) 今日、こうやってレイクタウン、イオンの会場を借りて行っております会津フェスタに参加をいたしまして、いや、元気になったなというのを感じたのが第一印象であります。

いろんなところで様々な催しをいただいておりますが、徐々に徐々に、一気にではなかなかいかないですけれども、徐々に徐々に、福島あるいは被災地の産品のよさというものが認知をされているなということは改めて感じました。特に、酒はもう日本中で評価されておりますので、今日もちょっと飲み過ぎてしまいましたけれども、しっかりと評価されているなど。そして、ここへ買い物に来ていらっしゃるお客さんが、やっぱり幾つかの店はもう、行ったときに品切れという状況になるほど売れておりまして、売れ行きのほうもしっかりしてきたなということも感じました。

それから、福島の復興でありますけれども、檜葉が先月の5日に解除になりまして、帰れるという状況になりました。これから2年後に、帰還困難区域を除いては、我々は、帰れるという、避難指示を解除するということを実行しようとして決めております。決めたからには、しっかりと除染をして、そして帰っていただく。そのためにインフラの整備等々、遅れないようにきちっとやり抜いていかなきゃいかんという責務を、決めた以上は我々、背負っているわけでありまして、これはもう懸命にやり抜いていかなきゃならん、こう思っております。

また、会津については、実は原発の直接の影響というのはないんですけれども、本当に長い時間、風評被害というのに悩んでおりまして、この悩みをどう乗り越えていくか。農産物、そして修学旅行を初めとする観光客、この回復に、地道な努力をしていかなきゃならんなど。その意味で、今日のこのイオンモールでやっていただきましたフェスタ、何回も開催していただいておりますが、こうしたことの積み上げが、一步一步の積み上げ

が、「お、会津、うまいじゃねえか」と、「福島のもの、おいしいよ」と、これ、やっぱり物がよくなきゃいけないんですが、そういう形で広がっていくことによって必ず克服できると、また、していかなきゃならん、こう考えております。

(問) 今日、まず大臣、いろいろと会津の産品を御試食いただきましたけれども、いかがでしたか。いろいろな産品、お米、お酒など、実際、御自分で御試食されてどうでしたでしょうか。

(答) いや、おいしいですよ。特に福島の果物というのは、桃にしても、トマトは果物じゃないけれども、トマトにしましても、非常においしい。今日はリンゴもいただきましたけれども、甘い甘いリンゴでしたし、これが売れねえわけねえと。何としても風評被害を乗り越えなきゃいかんなどという、改めて思うぐらい、おいしいです。

(問) 直接関係しないところではあるんですけども、総理が組閣後、福島も訪問を検討しているというのが昨日一部報道で出ておりましたけれども、最近、総理、被災地に訪問されることなかったと思うんですけども、これ、今後はできるだけ訪問していただきたいということでしょうか。

(答) 安倍総理の偉いところは、基本的に毎月1回、被災地を訪問して、たまたま先月は平和安全法制がいよいよぎりぎりの状況の中で、それは実現できなかつたですけども、私は、これからも復興は自分の第一の仕事の一つだと、こう言っている限り、必ず毎月1回ぐらいのペースでは行っていただけると、期待もしていますし、それはもう確信しています。彼、行くと思うよ。

(問) すみません、地方創生の関係なんですけど、7月に若松市とイオンさんと、大臣も出席されたかと思うんですけど、今現在、農産物がイオンさんの方と生産価格、生産者のほうで、一応は実証実験を進めているんですけど、復興庁としても、どういうふうに支援してくかというのは、改めてちょっとお考えを聞かせていただきたいんですが。

(答) 様々な支援ができるんじゃないかなと。一つは人的な支援です。会津若松の皆さん方が、企業と協定を結ぶといっても、それぞれの企業や団体が持っている文化が違いますから、それをどう調整していくかというのは非常に重要な要素でありまして、そういう分野では、ある種の貢献ができるんじゃないかな。

それから、成果が上がるようになると実際物が動く。じゃ、例えばトマトの農園つくると。そのときに、何か工場作るときに公的に支援できないかと。それは検討しましょうということも当然可能性として大きくあります。

被災地に元気になってもらうのが我々の仕事ですから、元気にな

ってもらふことに役立つことは徹底的に応援していこうというふうに考えております。

(問) 国としての関わりとしては、交付金なんかがあるかと思うんですけれども。

(答) 一つは交付金ですし、それから、県にお渡ししております原子力発電所の事故に関連する交付金がありますので、例えば1,000億がありますので、それをそれぞれの市町村が元気になることに使ってくれと。福島もその方向に使いますということ、福島県も言ってくれておりますので、例えば修学旅行のバス代を助成するとか、これ、福島県がやっているんですよ。それは、もとの原資は国から、これは原子力のエリアを元気にするために使ってくださいということでお渡しした1,000億を活用してもらっている。企業の面でも活用していただけると、こう思っています。

(以 上)